

同窓会会報

熊本大学医学部保健学科 第20号



総会集合写真

目次	同窓会会長あいさつ.....	1
	保健学教育部長あいさつ.....	2
	名簿管理システムおよび同窓会会報のデジタル化について...	3
	在校生の寄稿.....	3
	同窓会総会議事録.....	5
	特別企画.....	9
	熊本大学卒業生表彰.....	11
	安田セツ子奨学助成基金運用のご報告.....	11
	ご寄付について.....	11
	寄付者芳名録.....	12
	国家試験合格状況.....	13
	令和5年度卒業生の進路状況等について.....	14
	保健学科教員紹介.....	15
	同窓会役員名簿.....	15

2025年度保健学科同窓会総会、特別講演、懇親会のご案内

日時：2025年7月5日（土）（予定）
14時00分より

場所：熊本大学医学部保健学科

変更の可能性もあるためURLをご覧ください。

熊本大学医学部保健学科同窓会
<http://hoken.kuma-u.jp/>

毎年7月第1土曜日に予定をしています。

住所変更・会報不要の方は、下記にご連絡ください。

TEL：096-382-1177

メール：kumamoto@ohp.co.jp（小野高速印刷）

ご 挨拶

同窓会会長 春 田 昭 一

(済生会熊本病院／医療技術短期大学部衛生技術学科5期)

平素より医学部保健学科同窓会へのご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

令和6年は、元日早々の「令和6年能登半島地震」さらに、翌日にはその地震の支援に向かう途中であった海上保安庁航空機とJAL旅客機の羽田空港地上衝突事故と年明け後2日連続の惨事であったことから国内外に大きな衝撃を与えました。その後、能登半島は、全国からの支援により復興への道を辿っていたところではありますが、9月には「令和6年9月能登半島豪雨」により、さらに甚大な被害を受けております。被災に遭われた方、亡くなられた方におきまして心よりお見舞い申し上げます

さて、保健学科同窓会総会は、2020年からの新型コロナ肺炎の流行により、2度の中止、Web開催を経て、昨年は4年ぶりの現地開催を行うことができました。そして今年も令和6年7月6日に同窓会・総会・懇親会を開催することができました。総会参加者も29名、懇親会20名の参加がありました。参加を頂いた方がたに心から感謝申し上げます。

今年の総会では事務局の準備不足と講師の先生とのスケジュールの関係で特別講演なしということになりましたが、その分、総会議案や特別企画にゆっくりと時間をとることができました。

総会では重要議題であるWEB同窓会システムの導入、会報の発送停止などについて説明させていただきました。また、特別企画は新年早々の「令和6年能登半島地震」を受けて「医療従事者としての災害対策」をテーマとした各専攻の立場においての経験などをお話いただきました。能登半島地震（マグニチュードM7.6）は熊本地震（マグニチュードM7.3）よりも強い揺れがあっただけではなく、津波の発生やコロナ感染リスクなど被災地状況は困難極めるものでした。そのような状況の中の支援活動も苦勞されたことと思います。また、いつか来る災難のため「医療従事者としての災害対策」として準備をしておきたいところです。

懇親会ではコロナ禍明けの4年ぶりの開催とあり、参加者も少なかったのが寂しいところです。しかし、総会と合わせて参加していただいた学生さんたちも自分達が将来の働く姿を想像しながら不安に思うこと、気になることなど、先輩方にたくさん質問されていました。これこそが同窓会のたてのつながりであり、この関係は非常に大切と感じてこれからも継続したいと考えます。ただ、総会、懇親会もコロナ禍前から参加者数確保に苦勞しており、アナウンス不足も要因であると思っております。過去には同窓会総会の開催前にはハガキにて案内をしていた頃には100名前後の参加人数でしたが、経費節減などから発送を停止しており、その頃から同窓会参加者数も50名前後に減少してきております。前述しましたWEB同窓会システムは単に同窓会名簿のシステム化ということではなく、皆様にメールアドレスを登録していただくことにより、大学及び同窓会からの様々な情報をリアルタイムに情報発信できるようになります。どうぞ、WEB同窓会システムへの登録をよろしく申し上げます。

新型コロナもニュースなどで報道されることも少なくなりましたが、インフルエンザと同様、ウイルスがいなくなった訳ではありません。今もなお感染者は多数おられます。

卒業生の皆様におかれましては、健康に留意されご自愛くださいますようお願い申し上げます。

ご挨拶

大学院保健学教育部長・医学部保健学科長 大林 光念



令和5年4月より保健学教育部長・保健学科長に任ぜられ、就任2年目を迎えました。熊本大学医学部保健学科同窓会の皆様におかれましては、日頃より大学へのご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。特に、この度のABC棟改修工事（昨年度第一期工事を終え、現在第二期工事中です。）に対する同窓会の皆様からのご寄付に対しましては、居職員ならびに在学生一同、心より感謝いたしております次第です。次年度第三期工事を終え、新校舎が完成した暁には、是非とも生まれ変わった母校の姿をご覧ください。

校舎の改修のみならず、大学院保健学教育部・医学部保健学科は、大学院大学たる熊本大学の一部局として、新たなステージへに向けて着々と進化を遂げております。例えば2020年度に開設した生体情報研究センターは、新型コロナウイルス関連検査中心だった昨年度までとは大きく異なり、「多分野融合型新医療創出研究」を推進することに主眼を置いたものに舵を切ったものとなっております。生命科学研究部保健学系の強みである「ウイルス遺伝子検査学」、「遺伝カウンセリング学」、「質量分析学」に関する研究に、所属する各教員が持つ様々な専門性を融合することで、更に進化した医学・保健学研究の拠点を構築しようとしているところです。また、本センターではもう一つ、「地域における医学・保健学『教育』の拠点」としての役割を果たすという目的も新たに掲げました。「基礎医学と臨床医学の架け橋」、「次世代研究者への架け橋」、「地域と大学との架け橋」という3つの意味を込めて、前年度から多方面に向けて発信をスタートした「架け橋授業」は、正にその象徴たる活動の一つです。加えて、2022年度に開設した大学院博士前期課程遺伝カウンセリングコースからは、本年3月に初めての修了者を3名輩出できました。新時代の医学・医療を牽引する、熊本大学大学院保健学教育部出身の認定遺伝カウンセラーの誕生も目前です。

このように、新たな歴史を着々と形成している熊本大学大学院保健学教育部・熊本大学医学部保健学科が益々の発展を遂げるには、(昨年の本誌でも述べましたように) 大学と同窓会との「新時代を見据えた健全で対等な協力関係の構築」も不可欠です。大学に大学なりのビジョンがあるように、貴同窓会においても「あるべき後進の姿」を思い描いていただき、若手の育成に有益な支援活動を考案、継続していただければ幸いです。

充実した教員陣と最先端設備、そして先輩たる熊本大学医学部保健学科同窓会の皆様の温かいご支援に囲まれ、人を愛するために学びを愛する若人たちが、人への深い思いやりと医学・医療への熱意、最先端の総合医科学的知識を併せ持つ人材に成長する場として、今後益々熊本大学大学院保健学教育部・熊本大学医学部保健学科を活用してくれることが、私ども教職員一同の最大の目標、喜びであります。このような我々の思いと歩調を合わせ、貴同窓会が益々のご発展を遂げられますことを、心より祈念いたしております。

名簿管理システムおよび同窓会会報のデジタル化について

昨年の同窓会会報にて標記の件について取り上げて令和6年度同窓会において名簿管理システムおよび同窓会会報のデジタル化について承認いただきました。これにより、印刷費、郵送費高騰による経費削減、同窓会名簿のWEBによる個人での管理、メール登録によるリアルタイムでの情報提供などが可能となります。

つきましては、今年度より同窓会会報の発送を取りやめ、今年度は発行の案内の郵送を行いました。

次年度からは、会報の郵送ではなく、2025年1月運用開始予定の名簿管理システム「WEB同窓会システム」

(<https://www.wd-system.jp/index.html>) に登録いただいたメールアドレスにて会報発行の案内や同窓会総会の案内など送信させていただきます。このほかにも大学院・保健学科との連携により大学（ホームカミングデーや公開講演会など）からの情報提供できるよう検討しております。また、希望される方には熊本大学本部からのメーリングリストのご案内を致しますので、是非、WEB同窓会にログインしていただき、メールの登録をお願いします。

在校生の寄稿

大学生活での学びを活かして

看護学専攻4年 脊戸 凛

新型コロナウイルスが依然として猛威を振るっていた2021年度に入学し、あっという間に時が過ぎ、卒業を迎えようとしています。振り返ってみると、コロナ禍という不確実な状況の中での入学式から始まり、リモート授業や限られた対面の活動など、高校時代に想像し期待していたものとはかけ離れた大学生活のスタートとなりました。在学中に徐々にコロナ規制は緩和され、3年次には対面での授業が中心となり、部活動も本格的に取り組むことができました。制限もありましたが学業に部活動、アルバイトとさまざまな経験をし、振り返れば充実した大学生活を送ることができました。

大学生活で最も印象に残っていることは、3年次の領域別実習です。これまでの授業で学んだ知識を活かし、受け持たせていただいた患者さんの看護過程を展開していく中で多くの学びを得ることができました。それぞれの領域に独自の興味深さがあり、自分の得手不得手を知ることができました。中でも急性期領域に魅力を感じました。急性期実習で受け持たせていただいた患者さんは、術後、順調な回復経過を辿っていましたが、週末明けに病棟に行くとき状態が悪化していました。当初、計画していた退院指導を中止し、看護問題の優先順位の変更・看護計画の修正を行いました。この経験を通じて、患者さんの状態は刻一刻と変化しており、目の前の患者

さんから得た主観的・客観的情報を多角的にアセスメントして、「今」必要な看護は何か」を常に考え、介入していく必要があることを実感しました。実習中には、自分の知識不足や無力さを痛感し、悩むこともありましたが、看護を自分で考えて展開していくことの楽しさを学ぶことができました。

これから看護師として働いていく中で、複雑な疾患や事情を抱える患者さんにも多く出会うことと思います。専門職者としての確かな知識と技術を活かしながら、精神的にも患者さんの支えとなれる存在でありたいと思います。また、患者さんだけでなく、共に働く医療者からも信頼される看護師を目指し、入職後は自己研鑽に励んでいきたいと思っています。

最後に、共に切磋琢磨しながら大学生活を過ごした友人、ご指導いただいた先生方、そして、大学生活を通じ出会い、関わってくださったすべての方々に感謝いたします。

大学4年間を振り返って

放射線技術科学専攻4年 松木 優真

大学生活を振り返ってみると、あっという間の4年間だったように思います。

私が入学した当初はまだ新型コロナウイルスも落ち着いておらず、ZOOMを主とした遠隔授業が中心で、大学1年

生のころは両手で足りるほどしか学校に出てきた記憶がありません。サークルでの活動も自粛が求められており、なかなか思うような大学生活が送れず不安に感じることも多くありました。友達に対面で気軽に相談できる機会も少ないにも関わらず、専門科目も理論的なものが多く、勉学の面でもかなり苦戦した記憶があります。

しかし、2年生にあがり、コロナウイルスもある程度落ち着いてきたことで制限があるものの対面で講義を受けることができ、やっと大学生らしい環境で勉学に励むことができたように感じました。講義の内容も、1年生の間に学んだ知識を実際の医療の現場で用いられている技術や装置に結び付けるような内容が多く、点としてしか持っていなかった知識が初めて繋がったような気がしました。

3年、4年では、実験や実習が時間割の大部分を占めるようになり、より友達の大切を実感した2年間でした。普段交流の少ないような同級生ともグループワークを通して交流する機会が増え、新たな一面を知ることが出来たり、そこからさらに交流の輪が広がったりとクラス内での仲がととても深まりました。

4年次の病院実習は、2年次での実習とは比べ物にならないほど忙しく、実習の生活リズムに慣れるまでは、朝早く起きて学校に行き着替え、教科書を読みながら病院へ向かい、実習が終わったら友達と相談しながらレポートを書き、その後帰宅して泥のように眠るという生活が続きました。また、病院実習で自身の知識の不十分さ、未熟さを目の当たりにして落ち込むことも多々ありました。しかし、最後まで乗り越えることができたのは同じように実習に臨み、落ち込み、励ましあったグループメンバーのおかげだと思います。実習にも慣れてくると、自分のことだけでなく、放射線技師としての技術や医療従事者としての接遇、心構えなどにも視野を広げることができ、改めて放射線技師という仕事の役割や素晴らしさ、やりがい等を実感し、自分の将来の人生設計がより具体的になりました。

この4年間いろいろ大変なこともありましたが、乗り越え、成長することができたのはひとえに、一緒に頑張ってくれたクラスメイト、温かく見守ってくださった先生方、お忙しい中でも私たちを受け入れ指導してくださった病院の方々のおかげです。このことを忘れず、学部を卒業してからも医療業界に貢献できるような放射線技師になれるように日々精進していきたいです。

大学4年間を振り返って

検査技術科学専攻4年 きたがわ しんじ 北川 慎嗣

大学生活を振り返ると、実りのある4年間であったと強く感じます。様々な出会いの中で人間をよく観察し、どのような性格や考え方をもっている人なのか、どういふ接し方をしていくべきなのかを考える能力が培われました。更に、様々なチャレンジやそれによって得られた経験を通して、自分自身の考え方が広く深くなりました。そういった意味で、熊本大学は自分を一人の人間として成長させてくれた場所でした。

入学当初はまだコロナウイルスの影響が残っており、授業はすべて遠隔でした。そんな中、漠然とした不安を拭ってくれたのがバレーボールでした。1年次はサークルに所属していましたが、本気で打ち込みたいという思いで、2年次に本学のバレーボール部に入学し、そこで自分が求めていたものに出会い、仲間ともかつての仲間ともお互い高め合ってきました。本学と医学部を行き来し、夜までかかった実習の後に大分へ遠征に行ったこともありました。学業と部活動を両立させる中で、時間の使い方、勉強の仕方を学ぶとともに自分の限界がどこにあるのかにも気づくことができました。

3年生になると、両立がままならなくなり、退部することを決めました。そこでまた、拭いていたはずの不安に苛まれました。そんな時に僕を救ってくれたのが音楽でした。心から好きになれるアーティストに出会い、苦しくなったときは、光を求めて、彼らの声を聴きに行きました。そこで、僕は彼らに会うために、彼らの声を聴くためにここまで乗り越えてきたのだと、彼らは気づかせてくれました。そして、これから様々な選択を迫られた時、その選択が正しかったと言えるように、正しかったと言うために、日々生きていこうと心に決めました。

4年次の臨地実習では、かけがえのない、忘れられない経験をすることができました。沢山見て、沢山聞いて、沢山盗んで、これまで頭に詰めては消えていた知識を、思い出と共に記憶に刻むことができました。

卒業後は医学教育部に進学することが決まっています。ある日から検査技師になる夢は薄れ、自分のやりたいことを見失い、現在、過渡期の中にいます。とりあえずは大学院で研究に励み、新たな道を、光を見つけに行こうと思います。最後に、支えてくれた家族、大学で出会えたすべての人に感謝し、もっともっと自分自身を成長させていきたいと思っています。そして、自分の思い描く幸せを掴みにいきます。

大学院生活を振り返って

保健学教育部検査技術科学コース

博士前期課程2年 なかお みつき 中尾 美月

大学院生活を振り返ると、研究に就職活動にあつという間の2年間でした。私は2023年3月に熊本大学医学部保健学科検査技術科学専攻を卒業後、同年4月に熊本大学大学院保健学教育部博士前期課程検査技術科学コースへ進学しました。企業就職も考えていたため、研究についてさらに学びを深めたいとの思いで大学院への進学を決めました。

私は大学院生活において、研究活動と学会発表というとても貴重な学びを得ることができました。大学院に進学するきっかけとなった研究は、新規アミロイドーシス原因タンパク質の同定に関するもので、臨床研究だけでなく、基礎研究にも携わることができました。学ぶことの多い研究生生活において、常に知識を深め、新しい研究プランを考える日々を過ごしました。2年という短い期間で、できることも限られる中、指導教員の先生や研究室の後輩とともに、試行錯誤し研究を進めることができました。自ら計画し、実行することの難しさや楽しさを実感するとともに、社会人として必要な計画立案力や実

行力を少し身に着けることができたと思います。また、国内外の学会にも参加させて頂き、多数の発表を拝見する中で、自分の知らない領域や新しい発想に触れ、自分の考え方や研究のプランニングに対してとても良い刺激となりました。また、英語で発表させて頂く機会にも恵まれ、自分の英語力の無さを痛感するとともに、今後、英会話に力を入れ、グローバル化社会で活躍できる人材になりたいと思うきっかけとなりました。私は大学院の2年間で、研究に対する知識や技術を培うとともに、研究の楽しさを学び、グローバル化社会に適応できる人材になりたいという明確な将来ビジョンを持つことができました。私はご縁があり、グローバルに展開している企業の研究職として就職することが決まっています。この大学院生活で培った研究に対するノウハウを活かして研究に従事するとともに、グローバルに活躍できる人材になれるよう精進していきます。

学部の4年間、そして大学院の2年間で、多くのことを学び、高い志を持つことができたのは、ひとえに指導教員の先生をはじめ、諸先生方、研究室の後輩や学部の同期のおかげです。この6年間私の学生生活に関わってくださったすべての方々に感謝致します。

第19回熊本大学医学部保健学科同窓会総会議事録

日 時 令和6年7月6日(土) 14:30~18:30

場 所 熊本大学医学部保健学科E棟 5階 E506

出席者数 29名

議 長 浅見河原恵美氏(熊本市民病院)

<総会式次第>

開会の辞

同窓会会長挨拶

保健学教育部長挨拶

議長選出

議事

1. 令和5年度事業及び会計に関する報告
 - ①事業報告
 - ②決算報告
 - ③監査報告
2. 令和6年度役員について
3. 令和6年度事業計画(案)
4. 令和6年度予算(案)

5. 「WEB同窓会システム」導入の検討について
閉会の辞

【議事要旨】

14時30分、事務局担当の松尾より開会が告げられ第18回同窓会総会が開会された。

最初に、春田会長が会を代表して挨拶を行い、続いて大林熊本大学大学院保健学教育部長のご挨拶が行われた。その後、浅見河原恵美氏(熊本市民病院)が総会議長に選出され、議事に従い5項目の議案の審議が行われた。

1. 令和5年度事業報告及び会計に関する報告

春田会長より第18回同窓会総会の開催、同窓会会報第19号発行、第8回九州同窓会連合同窓会への参加、第9回関東連合同窓会の参画、卒業生表彰等、1年間の事業が報告された。松本会計幹事より令和5年度の会計について決算状況が報告された。その後、北里・肥合監事より令和6年3月30日に行った会計の監査結果について、

適正であったとの報告が行われた。質疑応答では特に質問はなく、その後賛成多数で令和5年度事業報告、決算報告並びに会計監査報告は賛成多数で承認された。

2. 令和6年度役員について

現役員の紹介と継続について承認を得られた。

3. 令和6年度事業計画（案）について

春田会長より、令和6年度事業計画（案）について説明があった。

4. 令和6年度予算（案）について

令和6年度予算（案）について松本会計幹事より説明があった。質疑応答では特に質問はなく、その後、採決を行い、参加者の賛成多数で令和6年度事業報告（案）、令和6年度会計予算（案）は承認された。

5. 「WEB同窓会システムおよび同窓会会報のデジタル化」導入の検討について

個人情報保護の観点から名簿冊子を廃止したことともなう「WEB同窓会システム」について説明。同時に印刷・郵送費高騰ともなう同窓会会報のデジタル化と発送停止について説明を行った。WEB同窓会システムおよび同窓会会報のデジタル化は承認された。

以上で、議案審議が全て終了し、議長は、降壇した。

最後に、事務局担当の松尾より閉会の挨拶があり、同窓会総会は、15時30分に終了した。

次に特別企画において、看護学専攻 田口先生、放射線技術科学専攻 下之坊先生、検査技術学専攻 今村先生から、「卒業生から在校生へのアドバイス」と題した講演が行われた。

令和6年7月6日
議事録署名人 松尾 祐一



◆ 看護職員募集 熊本大学病院看護部



熊本大学医学部保健学科同窓生のみなさまへ
“私たちと一緒に働きましょう”

私たちの病院は、看護職員一人ひとりが専門職としての能力向上につながるキャリア開発支援と生き活きと働き続けられる職場づくりを目指しています。

熊本県看護職キャリア開発支援事業での人事交流や看護師特定行為研修など、いろんなことにチャレンジしてみませんか。



詳しくはホームページをご覧ください。

令和6年度 熊本大学医学部保健学科同窓会 予算案

収入

勘定科目	本年度予算額	前年度収入額	増減額	備考
1.前年度からの繰越金	6,350,978	7,235,555	-884,577	
2.保健学科入学生会費	1,100,000	1,110,000		昨年度納入者数111名 (うち、令和5年度入学生97名、在校生1名、卒業生2名、令和6年度新入生11名) 本年度も左記を見込み計上
3.その他	0	528,399		
寄付金		518,344		
広告料		10,000		会報へ熊本大学病院看護部求人広告掲載分
利子		55		
合計	7,450,978	8,873,954	-1,422,976	

支出

勘定科目	本年度予算額	前年度執行額	増減額	備考
大科目	中科目			
1.在校生教育支援費	2,100,000	1,100,280	999,720	
オープンキャンパス補助費	100,000	100,280		参加者へのジュース代、郵送料込み
熊本大学基金へ寄付	2,000,000	1,000,000		保健学科講義棟改修工事のため
2.同窓会総会運営費	155,000	90,610	64,390	
総会、懇親会補助費	120,000	20,610		会場使用料、印刷費等 懇親会飲食補助(学生参加者、講師、他)
特別講演 講師謝金	0	50,000		R6年度:特別講演は実施せず
特別講演 講師交通費	0	5,000		
特別企画 講師謝金	15,000	15,000		5000円×3名
特別企画 講師交通費	10,000	0		熊本市外からご参加の場合
広報費	10,000	0		チラシデザイン費、案内郵送料等
3.同窓会会報作成費 または 名簿管理システム導入費	2,000,000	1,063,471	936,529	R5年度:会報印刷費・作業費・郵送料 R6年度:①会報を例年通り作成、または②名簿管理システムを導入、会報をWebに掲載(総会での審議にて決定) ②の場合 ・名簿管理システム導入初期費用 ・IDパスワード通知案内費用 ・会報作成のための編集委託費用 等を含む
4.ホームページ維持管理費	59,500	59,500	-	
5.熊本大学同窓会連合会会費	0	60,440	-60,440	R5年度:郵送料込み R6年度より廃止
6.表彰費	11,000	11,000	-	卒業生表彰記念品(令和5年度:1名)
7.旅費	130,000	127,000	3,000	役員会議時雑費(1000円/回×参加者数) 関西連合同窓会へ会務として出席する際の旅費
8.事務経費	20,000	10,675	9,325	役員会会場使用料、事務用品、通信費、会議費、各項目に含まれない振込み手数料等
9.予備費	100,000	0	100,000	会費の重複納入者への払い戻し、郵送料等 その他必要な支出があった場合
10.次年度繰越金	2,875,478	6,350,978	-3,475,500	
合計	7,450,978	8,873,954		

令和5年度 熊本大学医学部保健学科同窓会 決算

収入

勘定科目	予算額	収入額	備考
1.前年度からの繰越金	7,235,555	7,235,555	
2.保健学科入学生会費	1,200,000	1,110,000	(令和5年3月1日～令和6年2月28日入金分) 令和5年度納入者総数 111名 令和5年度入学生 97名 (看護55名、放射23名、検査19名) 在校生 1名 卒業生 2名 令和6年度新入生 11名
3.その他	0	528,399	
寄附金		483,140	(令和5年3月1日～令和6年2月28日入金分)140名
寄附金		35,204	有志の皆様より
広告料		10,000	会報へ熊本大学病院看護部求人広告掲載料
利子		55	
合計	8,435,555	8,873,954	

支出

勘定科目		予算額	執行額	備考
大科目	中科目			
1.在校生教育支援費		100,000	1,100,280	
	オープンキャンパス補助費	100,000	100,280	ジュース代、振込手数料込み
	熊本大学基金へ寄附	0	1,000,000	保健学科講義棟改修工事のため役員会にて決定し執行
2.同窓会総会運営費		110,000	90,610	(令和5年度は新型コロナウイルス対策のため懇親会は実施せず)
	総会費	30,000	20,610	会場使用料(保健学科E棟506および第一会議室 各5時間)
	特別講演講師謝金	50,000	50,000	
	特別講演交通費	5,000	5,000	
	特別企画講師謝金	15,000	15,000	5,000円×3名
	広報費	10,000	0	
3.同窓会会報作成費		1,150,000	1,063,471	印刷費・作業費・振込手数料込み
4.ホームページ維持管理費		59,500	59,500	振込手数料込み
5.熊本大学同窓会連合会会費		60,440	60,440	振込手数料込み
6.表彰費		50,000	11,000	卒業生表彰記念品(令和5年度:1名)
7.会費・寄付金払い戻し		30,000	0	重複納入者への払い戻し、郵送費等 令和5年度:払い戻しなし
8.旅費		140,000	127,000	役員会議時雑費(1000円/回×参加者数) 令和5年度東京連合同窓会へ会務として出席
9.事務経費		30,000	10,675	令和5年度より役員会・総会時に会場使用料支払い、振込手数料込み 事務用品、通信費、会議費、各項目に含まれていない振込み手数料等
10.予備費		100,000	0	
支出小計			2,522,976	
11.次年度繰越金		6,605,615	6,350,978	
合計		8,435,555	8,873,954	

【収入】 8,873,954円 — 【支出】 2,522,976円 = 【差引残高(次年度繰越額)】 6,350,978円

令和5年度熊本大学医学部保健学科同窓会の会計監査を 令和 6 年 3 月 26 日に実施し、出納簿、領収書等関係書類と照合した結果、関係書類の整備も良好であり、科目別支出および預金通帳についても異常を認めず適正であったことを、ここに報告します。

令和6年 3月 31日

監事

橋田昌弘



令和6年 3月 30日

監事

北里真弓



特別企画

医療従事者としての災害対策 ～看護師にもできる役割と備え～

熊本大学病院 MFICU 看護師 田口 弘美

熊本大学病院DMAT隊には、医師、看護師、業務調整員（放射線技師、検査技師、臨床工学技士）等が所属しています。厚生労働省主催の隊員養成研修を経て隊員登録をしたのち、技能維持研修、政府医療活動訓練、九州沖縄ブロック実働訓練、院内技能維持訓練など、日頃から災害対応への研鑽を続けています。

今年、1月1日、能登半島地震が発生した際には「大津波警報」「震度7」に対して全国のDMAT隊が出動待機となりました。当院でも、メンバー構成をどうするか、携行資機材の選定、寒冷地での長期活動としての追加装備について、連日、関係部署での検討を重ねながら準備を進め、派遣が決定したのは1月13日でした。隊員が所属する部署での派遣期間中の勤務交代や、衛生材料・薬剤のパッキング、隊員4人分×1週間分の衣食住備品準備、移動手段と経費の手配など、医療職だけでなく事務部門など、院内総出での調整が行なわれました。

現地活動としては、石川県、穴水町保健医療福祉調整本部において、避難所支援班の統括業務を担当しました。49カ所の避難所の情報集約を行なって、支援ニーズを抽出し、対応するDMATの調整や、他、保健師チー

ム、他支援者団体との調整折衝など、活動内容は多岐にわたりました。日頃から災害支援に関する研鑽は行なっていましたが、机上の知識とは異なり「この時期は雪解け水で生活するので避難所には行かなくても困らない」「病院には数年かかったことがない、医療者に相談することは無い」と、支援活動側の思いと現地の方々の思いが一致しない場面も多くありました。また、穴水町唯一の公立病院では「機械の破損で採血結果が出せない」「技師が出動できずレントゲン撮影ができない」など、病院診療の維持には検査部門の維持が不可欠であることを目の当たりにする場面もありました。

今回の能登半島地震での活動では、亜急性期であったこともあり直接的な医療ケアをする機会はなく、看護師として何を実践できたか、明記できる技術行為はありませんでした。しかし、DMAT隊員とのチームワーク、病院内の事務部門スタッフとの連携、という日頃からコミュニケーションを円滑にすることが、活動の根幹となっていたことを実感しています。病院内ですれ違う人たちへの挨拶、これが医療従事者としての災害への備えの第一歩になる、と信じて、頑張っていきたいです。

特別企画

「医療従事者としての災害対策」 当院の対応と肺血栓塞栓症予防検診活動の経験から

熊本大学病院 中央検査部 今村華奈子

はじめに

私たちは2016年に熊本地震を経験したわけですが、東日本大震災からたった5年後にこのような大震災を経験するとは思っていませんでした。今回の講演では、当院中央検査部の初動と臨床検査技師として超音波検査に従事している私が、どのような形で災害時の臨床支援活動にかかわったのかを振り返らせていただきました。

熊本地震における当院中央検査部の対応

当院中央検査部は県内唯一の大学病院検査部であり、被災地窓口となり奔走されたのは、当時の検査部長と技師長でした。活動の詳細は「熊本地震における臨床検査支援活

動」という冊子にまとめられており、反省点や準備しておいたほうが良い点が列挙されているため大変参考になります。当院でも初動時の反省点を踏まえ、中央検査部における災害対策は以前にくらべ拡充しております。

重症肺血栓塞栓症患者が発生しDVT検診を開始

熊本地震では、過去の震災経験を活かしきれず、車中泊による肺塞栓症死亡例が発生してしまいました。このため、重症肺塞栓症予防のための下肢静脈血栓（DVT）の検診がスタートしました。日本臨床衛生検査技師会は避難所でのDVT一斉検診を計画し、下肢静脈エコー検査ができる検査技師を全国に募りボランティアとして約

200名が集結しました。その活動により、多くのDVT陽性の被災者を拾い上げることが出来き、検診活動後は一人も肺塞栓症による死亡者はおりませんでした。これは私たちのDVT検診活動の成果のひとつと考えており、このようなDVT検診活動の必要性和貢献度が分かりになるかと思えます。

DVT検診を経験し現在に活かされているネットワーク

混沌とした検診開始の最中、当院の検査技師はDVTチームリーダーとして割り振られ、外部の様々な方々との交渉や調整などを行いました。想定外なことやトラブルも多く起こり、当時の担当者は限界に近かったことが思い出されます。今回の公演では、このような経験をふまえ、検診ノウハウなどをお伝えさせて頂きました。今後の災害対策として次に繋がれば幸いです。またDVT

フォローアップ検診によるデータ等は、今後の検診における一つの提言になると考えております。

DVT検診は約2年で終了いたしました。現在は、そのネットワークを活かし、災害時にも機能する組織を当院中央検査部が中心となり構築しております。なお、現在では、このネットワークを活かしてエコー検査の標準化に向けた活動を行っています。

最後に

臨床検査技師が災害時において、力を発揮し大きく貢献したDVT検診を中心にお話させていただきました。この度は、再度災害時の対応について考える貴重な機会を頂き、関係各位の先生方にはこの場を借り深く感謝申し上げます。

特別企画

医療従事者としての災害対策

－医療機関としてどのように備えるべきか－

熊本大学病院 中央放射線部 下之坊俊明

近年、我が国では東日本大震災や熊本地震、能登半島地震を始めとした大地震・津波等に加えて、風水害・土砂災害なども多発しており、ほぼ毎年のように全国各地で大きな災害に見舞われている。日本はもはや世界屈指の「災害大国」であり、特に自然災害は地域や時期を問わず発生することから、いつ、誰が被災するか予測は困難である。また、過去には福知山線脱線事故や地下鉄サリン事件などの局地災害も経験しているが、種類に抛らずひとたび災害が起きれば医療従事者は待たなしの対応を迫られるため、災害に対する備えはどの医療機関においても他人事ではないと認識すべきであろう。

本邦における災害医療体制は1995年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」の教訓を契機に大きく進歩を遂げることとなった。阪神・淡路大震災発生当時は日本には災害医療を専門に担う医療機関や発災後に速やかに活動できる医療チームが整備されておらず、結果的に“避けられた災害死”が多く発生したと報告されている。一般的に災害時には医療資源と傷病者数の極端な不均衡が発生することから、全ての傷病者に平時と同等の医療を提供することができないため、限られた資源を最適に配分し医療の優先順位を決定する仕組みが必要となる。また、約19年前より厚生労働省が主体となってDMAT (Disaster Medical Assistance Team) という災害医療を専門とするチームが編成されており、現在は全国の災害

拠点病院を中心に約1400チーム程が整備されている。更に近年では災害時にDMAT以外にも多くの医療チーム等が活動を行っている。

災害発生時には前述の災害拠点病院やDMAT等の専門チームだけが活動を行うものと誤解されやすいが、被災した医療機関は如何にして自身の医療機関としての機能を維持し、院内の患者様や職員を守るかということを常に意識する必要がある。そのためには、災害時における医療機関のBCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) の策定が求められており、特に非常用電源や水(医療用、飲用、生活用)、医療ガス、トイレといったインフラの整備に加え、医薬品、衛生材料、食料の確保やスタッフへの啓発、災害訓練など平時から多くの準備が必要となる。そのためには、医師や看護師、メディカルスタッフといった医療従事者だけでなく事務部門等を含めた多職種で連携した協力体制作りが必須であり、災害医療は「究極のチーム医療」であると考えている。

近い将来に発生する可能性が高いと言われている南海トラフ地震をはじめ、様々な形態の災害に対して柔軟に対応できる災害医療体制の整備は喫緊の課題であり、災害時に地域医療を守るためには我々が従事する医療機関としての役割は非常に大きく、地域住民からの期待も大きいことを忘れてはならない。

熊本大学卒業生表彰

令和6年度熊本大学卒業生表彰の表彰式が11月4日に熊本大学ホームカミングデーにて開催されました。熊本大学の発展または社会からの理解促進に繋がる多大な貢献のあった卒業生に対し、その功績を学長よりたたえられます。

本年は保健学科から前田ひとみ様（教育学部特別教科（看護）教員養成課程 昭和56年卒業）が表彰されました。前田様は、保健学教育部長、副学長の要職を歴任されるとともに、熊本県感染管理ネットワークの立ち上げ等、感染症看護及び感染予防教育に取り組んでこられ、厚生労働大臣表彰を受賞されています。おめでとうございます。



安田セツ子奨学助成基金運用のご報告

令和5年度は、同窓会役員で審議した結果、6名の学生さんに助成させていただきました。基金の原資をご寄付くださいました安田様ならびにご家族様へ厚く御礼を申し上げますとともに、同窓会では今後も引き続き有効な運用を検討してまいります。

この基金は「経済的に困っている学生さんの支援に使ってほしい」という安田セツ子様のご厚意を賜り設立されたものです。設立の経緯については熊本大学医学部保健学科同窓会ホームページよりご覧いただけます（同窓会会報第14号に掲載）。申請手続きについては、保健学科内の掲示板に提示されています。

ご寄付について

保健学科同窓会会長 春田 昭一

皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より保健学科同窓会へのご支援とご協力いただき誠にありがとうございます。

保健学科同窓会は、①橋渡しの場の提供（卒業生と保健学科、卒業生と在校生、各施設・病院と保健学科等の橋渡し）、②在校生への支援、③同窓生間の情報交換の場の提供を目的に、皆様のお力を借りて運営しております。

具体的には同窓会総会、学生支援、ホームカミングデー支援、会報発行などを行なっておりますが、これら同窓会の運営は、新入会時の永年会費と皆様からのご寄付が財政基盤となっています。この紙面をお借りして、ご寄付された会員、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。同窓会として毎年の卒業生による会員増加は嬉しいことなのですが、財政的には厳しい面もあり、今後もお寄付に頼らなければなりません。

この寄付の方法は、今回までは同窓会会報発送時に払込用紙を同封しておりますが、次年度からは会報の郵送をしないことにより払込用紙の郵送もできなくなります。代わりのご寄付の手段としてはWEB同窓会システムからクレジットカードにて決済することができます。これにより、郵便局、コンビニなどへ出向くことなくご寄付いただけるようになります。なお、クレジットカードによる決済に抵抗がある方につきましては、「WEB同窓会システム」でのボタン選択により従来通りの払込用紙の送付ができるよう検討しております。

また、保健学科では、現在改修工事をおこなっております。同窓会への寄付をお願いしているところですが、別途「熊本大学基金」を通じて保健学科へのご寄付もどうぞよろしく願います。

熊本大学医学部保健学科同窓会寄付者芳名録

熊本大学医学部保健学科同窓会へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

今会報では、令和5年10月7日から令和6年10月6日までの間にご入金を確認させていただきました同窓会会員の皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。敬称は略させていただきます。

附属看護

生田 セキヨ (昭和18)
 岩村 久子 (昭和29)
 河野 幸子 (昭和29)
 坂井 洋子 (昭和31)
 藤本 智子 (昭和31)
 山縣 カズヨ (昭和33)
 八幡 初子 (昭和34)
 尾崎 清香 (昭和35)
 宮 寄 莊子 (昭和35)
 近間 裕美 (昭和35)
 河瀬 比佐子 (昭和35)
 足立 桂子 (昭和35)
 成田 千鶴子 (昭和36)
 清田 瞳 (昭和36)
 西村 博美 (昭和36)
 定村 洋子 (昭和36)
 森山 京子 (昭和37)
 尾山 タカ子 (昭和38)
 瀬口 三千代 (昭和38)
 坂口 捷子 (昭和39)
 高村 靖子 (昭和39)
 中尾 博子 (昭和39)
 菊地 蓉子 (昭和40)
 木下 理子 (昭和41)
 深水 郁子 (昭和41)
 齊藤 ミナ子 (昭和42)
 田中 美智子 (昭和43)
 松園 フミ子 (昭和43)
 秋元 隆子 (昭和44)
 高木 博子 (昭和44)
 宮里 邦子 (昭和44)
 春山 裕美 (昭和44)
 河野 壽美 (昭和45)
 中田 伸子 (昭和46)
 木山 麗子 (昭和47)
 道田 紀美子 (昭和47)
 南田 親恵 (昭和47)
 今村 須美子 (昭和48)
 島田 美千代 (昭和48)
 多田隈 孝子 (昭和48)

永利 佳志子 (昭和48)
 井上 知佳代 (昭和49)
 平野 正子 (昭和49)
 山部 文代 (昭和49)
 泉 るり子 (昭和50)
 山之内 尚子 (昭和50)
 平山 美智子 (昭和50)
 大曲 昭子 (昭和50)
 山之内 香代子 (昭和51)
 坂井 光香 (昭和54)

附属助産

吉田 法恵 (昭和26)
 友田 孝子 (昭和37)
 岡野 千恵美 (昭和52)

短大・看護

今村 比鶴 (昭和55)
 福田 由美子 (昭和55)
 七川 順子 (昭和55)
 西 照代 (昭和55)
 関山 圭子 (昭和56)
 中村 由美子 (昭和56)
 大畑 緑 (昭和56)
 馬越脇 直子 (昭和56)
 植田 明美 (昭和56)
 生田 悦子 (昭和56)
 種村 景子 (昭和57)
 上田 里美 (昭和57)
 土井 理保子 (昭和58)
 田中 理恵 (昭和58)
 竹光 まこ (昭和59)
 渕上 麻美 (昭和60)
 芝尾 薫 (昭和60)
 中川 れい子 (昭和61)
 平川 恵子 (平成元)
 田中 昌子 (平成2)
 田中 真由美 (平成2)
 野口 久美子 (平成3)
 緒方 朋美 (平成3)
 岩下 美穂 (平成3)
 隈部 尚美 (平成5)

古島 典子 (平成5)
 藤吉 明子 (平成7)
 木村 泰子 (平成7)
 島津 貴子 (平成8)
 森崎 恵子 (平成8)
 黒田 美春 (平成8)
 井村 昭寛 (平成9)
 堺 志乃 (平成9)
 溝口 貴子 (平成10)
 川原 眞由美 (平成10)
 北島 ちひろ (平成12)
 大井 美里 (平成13)
 龍 あずさ (平成14)
 今村 聡子 (平成17)
 安部 はるか (平成17)

保学・看護

廣 かほる (平成22)
 新井 美智子 (令和4)

専攻科助産

福田 詩子 (平成2)
 尾田 ゆり (平成8)

X線

堤 國美 (昭和42)
 野崎 征洋 (昭和42)
 天野 一弘 (昭和44)

附属放射

横田 雅一 (昭和45)
 赤峰 大介 (昭和46)
 植川 利之 (昭和46)
 新佐枝 憲一 (昭和47)
 松村 康弘 (昭和48)
 大賀 泰文 (昭和52)
 中野 美代子 (昭和52)
 尾崎 秀彦
 勝田 志真子 (昭和53)
 橋田 昌弘 (昭和54)

短大・放射

小崎 敏之 (昭和56)
 甲斐 剛 (昭和61)

倉重健一 (平成4)
高瀬千鶴子 (平成5)
井上淑博 (平成9)
松尾砂織 (平成9)
佐藤真衣子 (平成17)

保学・放射

小山由希子 (平成21)
杉元藍子 (平成23)
馬場祥吾 (平成23)

附属衛生

武藤勝 (昭和41)
錦戸直美 (昭和42)
野田治代 (昭和42)
幸道 (昭和43)
永沼三枝子 (昭和43)
田中美知子 (昭和48)

臨床検査

河野昌俊 (昭和50)
森信子 (昭和50)
森理恵子 (昭和50)
吉川裕子 (昭和50)

中潟順子 (昭和51)
佐々まゆみ (昭和53)
松田裕代 (昭和54)

短大・衛生

濱田紀美子 (昭和56)
松下洋一 (昭和56)
星祥子 (昭和56)
出口なるみ (昭和57)
赤池朋子 (昭和57)
甲斐智子 (昭和58)
保元富子 (昭和58)
白井邦明 (昭和59)
日高千穂 (昭和59)
春田昭一 (昭和59)
松永筆子 (昭和59)
前田みゆき (昭和61)
佐野真美 (昭和62)
江川加世 (昭和63)
岐部貴美子 (平成7)
堤恵 (平成10)
小川秀一郎 (平成15)

保学・検査

内田彩加 (平成20)
木下祐美子 (平成27)

特別看護

東サトエ (昭和49)
大神真理子 (昭和51)
橋本みさこ (昭和52)
鈴木留美子 (昭和53)
高山睦子 (昭和54)
浜田料子 (昭和56)
廣畑智子 (昭和59)
野邊美津子 (昭和59)
草野淳子 (昭和60)
佐藤穂波 (昭和62)
梅山栄子 (昭和63)
梅本千恵 (平成2)
二宮知子 (平成2)
横手直美 (平成5)
川田満栄 (平成9)
鈴木美咲 (平成12)
嶋田里佳 (平成17)

国家試験合格状況

令和6年3月

試験種類	受験年度	本学新卒者			全国(含既卒者)		
		受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(%) (うち新卒者)
看護師	R3	70	70	100.0	65,025	59,344	91.3 (96.5)
	R4	75	75	100.0	64,051	58,152	90.8 (95.5)
	R5	62	62	100.0	63,301	55,557	87.8 (93.2)
保健師	R3	20	20	100.0	7,948	7,094	89.3 (93.0)
	R4	16	16	100.0	8,085	7,579	93.7 (96.8)
	R5	20	20	100.0	7,795	7,456	95.7 (97.7)
助産師	R3	8	8	100.0	2,089	2,077	99.4 (99.7)
	R4	10	10	100.0	2,067	1,977	95.6 (95.9)
	R5	10	10	100.0	2,151	2,125	98.8 (99.3)
診療放射線技師	R3	35	30	85.7	2,953	2,184	74.0 (83.0)
	R4	39	39	100.0	3,224	2,805	87.0 (94.1)
	R5	33	32	96.9	3,565	2,834	79.5 (86.3)
臨床検査技師	R3	37	35	94.6	4,948	3,729	75.4 (86.4)
	R4	33	33	100.0	5,002	3,880	77.6 (89.5)
	R5	36	34	94.4	4,946	3,800	76.8 (88.0)

令和5年度卒業生の進路状況等について

R6. 5月末現在

看護学専攻（卒業生62名）		
（就職）	所在地	人数
熊本大学病院	熊本県	9
熊本市役所	熊本県	4
熊本県庁	熊本県	3
熊本赤十字病院	熊本県	3
医療法人桜十字病院	熊本県	2
福田病院	熊本県	1
済生会熊本病院	熊本県	1
慈恵病院	熊本県	1
菊陽町役場	熊本県	1
小国町役場	熊本県	1
九州大学病院	福岡県	6
済生会二日市病院	福岡県	1
聖マリア病院	福岡県	1
福岡徳洲会病院	福岡県	1
米の山病院	福岡県	1
浜の町病院	福岡県	1
福岡県庁	福岡県	1
福岡市役所	福岡県	1
すこやか工房	福岡県	1
大分大学医学部附属病院	大分県	2
大分県庁	大分県	1
別府市役所	大分県	1
鹿児島大学病院	鹿児島県	1
米盛病院	鹿児島県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	1
霧島市役所	鹿児島県	1
壱岐市役所	長崎県	1
佐賀病院	佐賀県	1
愛媛県庁	愛媛県	1
淀川キリスト教病院	大阪府	1
昭和大学横浜市北部病院	神奈川県	1
西横浜国際総合病院	神奈川県	1
国立病院機構横浜医療センター	神奈川県	1
神奈川県庁	神奈川県	1
東京医科歯科大学病院	東京都	2
杏林大学医学部付属病院	東京都	1
東京大学医学部附属病院	東京都	1
東京都庁	東京都	1
就職小計		61
（進学）	所在地	人数
（別科）熊本大学養護教諭特別別科	熊本県	1
進学小計		1

放射線技術科学専攻（卒業生33名）		
（就職）	所在地	人数
済生会熊本病院	熊本県	1
公益財団法人 熊本県総合保健センター	熊本県	1
熊本地域医療センター	熊本県	1
熊本整形外科病院	熊本県	1
熊本赤十字病院	熊本県	1
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	1
熊本中央病院	熊本県	1
球磨郡公立多良木病院	熊本県	1
熊本リハビリテーション病院	熊本県	1
福岡山王病院	福岡県	2
大牟田市立病院	福岡県	2
製鉄記念八幡病院	福岡県	1
医療法人社団高邦会 高木病院	福岡県	1
ヨコクラ病院	福岡県	1
北九州市立病院機構	福岡県	1
鹿児島市立病院	鹿児島県	2
大分大学医学部附属病院	大分県	1
大分県厚生連鶴見病院	大分県	1
佐世保中央病院	長崎県	1
沖縄県病院事業局	沖縄県	1
愛媛県立新居浜病院	愛媛県	1
松山赤十字病院	愛媛県	1
原田病院	広島県	1
大阪公立大学医学部附属病院	大阪府	1
医誠会国際総合病院	大阪府	1
大阪大学医学部附属病院	大阪府	1
メディカルスキニング	東京都	1
未定（就職活動継続・資格試験受験準備等）		1
就職小計		31
（進学）	所在地	人数
（本学大学院）保健学教育部	熊本県	2
進学小計		2

検査技術科学専攻（卒業生36名）		
（就職）	所在地	人数
済生会熊本病院	熊本県	2
日本赤十字社熊本健康管理センター	熊本県	2
高野病院	熊本県	1
公益財団法人 熊本県総合保健センター	熊本県	1
菊池都市医師会立病院	熊本県	1
くまもと県北病院	熊本県	1
熊本市役所	熊本県	1
福岡山王病院	福岡県	2
福岡赤十字病院	福岡県	2
飯塚病院	福岡県	1
小倉記念病院	福岡県	1
高邦会	福岡県	1
医療法人社団高邦会 高木病院	福岡県	4
九州中央病院	福岡県	1
アイロムグループ	福岡県	1
佐賀県医療センター好生館	佐賀県	1
重工記念長崎病院	長崎県	1
隼人メディカルクリニック	鹿児島県	1
新日本科学	鹿児島県	1
鹿児島赤十字病院	鹿児島県	1
慈愛会今村総合病院	鹿児島県	1
和歌山県庁	和歌山県	1
加古川総合保健センター	兵庫県	1
広島大学病院	広島県	1
佐藤病院	大阪府	1
未定（就職活動継続・資格試験受験準備等）		1
就職小計		33
（進学）	所在地	人数
（本学大学院）保健学教育部	熊本県	3
進学小計		3

保健学科教員紹介

◆看護学専攻

【基盤看護学】

准教授：松本 智晴

助 教：友岡 史沙 福重 真美 山本麻起子

【地域包括ケア開発看護学】

教 授：青石 恵子

准教授：中村 五月

講 師：金森 弓枝

助 教：森枝紗季子

【臨床看護学】

教 授：國府 浩子

准教授：柗中智恵子

講 師：城下 由衣

助 教：樋口 有紀

【実践開発看護学】

教 授：三笥 里香

准教授：福山 美季

助 教：橋野 明香

【母性看護学・助産学】

教 授：跡上 富美

助 教：島田久仁子 吉田 佳代

【リプロダクティブヘルス学】

教 授：田代 浩徳

【地域・公衆衛生看護学】

教 授：大河内彩子

助 教：石川 真子 谷川 千春

【健康増進学】

教 授：河野 宏明

講 師：那須 信

【大学病院からの派遣教員】

臨床講師：前田 梨沙

◆放射線技術科学専攻

【医用画像検査学】

教 授：藤原 康博

講 師：山下 康輔

【医用画像解析学】

教 授：船間 芳憲

准教授：坂本 史

助 教：中戸 研吾

【放射線治療技術学】

教 授：村上 龍次

【画像診断技術学】

教 授：北島 美香

准教授：米田 哲也

助 教：辻田 直子

【医用放射線科学I】

准教授：大野 剛

◆検査技術科学専攻

【生理機能検査学】

教 授：大林 光念

講 師：伊藤 雅浩

【環境衛生解析学】

教 授：大森 久光

助 教：松尾 祐一

【生体分子制御解析学】

教 授：大坪 和明

助 教：橋本 弘司

【臨床分析科学】

教 授：田崎 雅義

助 教：森 信子

【血液免疫病態解析学】

教 授：伊藤 隆史

助 教：梶原隆太郎

【腫瘍病態解析学】

教 授：柳沼 裕二

【腫瘍病理解析学】

教 授：山本 雅大

助 教：矢野 浩夢

令和6年度熊本大学医学部保健学科同窓会役員名簿

会 長：春田 昭一（済生会熊本病院）

副会長：羽手村昌宏（熊本大学病院）

溝上 幸洋（くまもと森都総合病院）

東京連合同窓会幹事：

松下 洋一（株式会社バイオトクステック）

九州連合同窓会幹事：

春田 昭一（済生会熊本病院）

増永 純夫（元熊本中央病院）

理 事：

（看護） 田邊菜穂子（熊本大学病院 看護部）

田中紀美子（元九州看護福祉大学）

片平 起句（医療法人社団愛育会 福田病院）

福重 真美（熊本大学医学部保健学科）

（放射） 荒木不次男（元熊本大学医学部保健学科）

有村 大喜（済生会熊本病院）

大野 剛（熊本大学医学部保健学科）

（検査） 増永 純夫（元熊本中央病院）

片淵 達也（熊本大学病院）

幹 事：

（看護） 山本麻起子（熊本大学医学部保健学科）

森枝紗季子（熊本大学医学部保健学科）

（放射） 辻田 直子（熊本大学医学部保健学科）

川俣 祐貴（熊本大学病院）

（検査） 田崎 雅義（熊本大学医学部保健学科）

高島 裕子（元熊本大学医学部附属病院医療技術部）

松尾 祐一（熊本大学医学部保健学科）

矢野 浩夢（熊本大学医学部保健学科）

会 計：松本 佳代（熊本保健科学大学看護学科）

吉田 佳代（熊本大学医学部保健学科）

監 事：北里 眞弓（元熊本保健科学大学看護学科）

肥合 康弘（帝京大学福岡医療技術学部）